大日本コンサルタント株式会社
NIPPON ENGINEERING CONSULTANTS CO.,LTD.

「美しく魅力ある国土の建設と保全」
「安全で快適な住まい環境の創出」

社会資本整備を通じ、
この2つの経営理念の実現に邁進すること。
これが私たちの社会的使命であり、働く喜びです。

1963年（昭和38年）の創業以来、確かな技術力で
橋梁、道路、都市、河川、港湾など、国内外の様々な
社会資本整備の計画・設計に取り組んでまいりました。
近年は、多様な社会課題と誠実に向き合い、
これまで以上に、持続可能な社会づくりに貢献できるよう、
イノベーションに注力し、事業領域の拡大に挑戦しています。

「人を創る、仕事を創る、社会を創る」経営方針のもと、
人と人、人と社会、人と自然との対話を大切に
社会から信頼され、必要とされる企業になるべく、
これからも公正かつ適正な企業経営を続けてまいります。
どうぞご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

大日本コンサルタント株式会社
代表取締役社長　楠本 良徳

業務内容

業務範囲は、
計画・設計技術をコアに、事業の企画から
運営・管理まで、社会資本整備事業全般をカバーします。
利害や立場の異なる人々と対話し、関係者間の合意を
形成することも、重要な役割です。
確かな技術力、誠実な対話力、創造的な発想力をもって、
社会ニーズに応えています。

□ 事業全般をカバーする業務範囲

企　画

事業者の委託を受けて、構想を立ち上げ、企画を練るフェーズ。社会ニーズの読み取り、予算確保の可能性、社会的インパクト等を勘案する力量が求められます。これまでは事業者自身が担うことが多かったですが、徐々に建設コンサルタントへの発注が増えてきています。

調　査

企画実現の可能性を調査するフェーズ。事業に影響する様々な調査項目を漏れなく抽出し、計画の前提を明確にするため、事業全体を見通す力も問われます。災害発生時に、建設コンサルタントが現場に駆け付けて、調査することも多くなってきました。

計　画

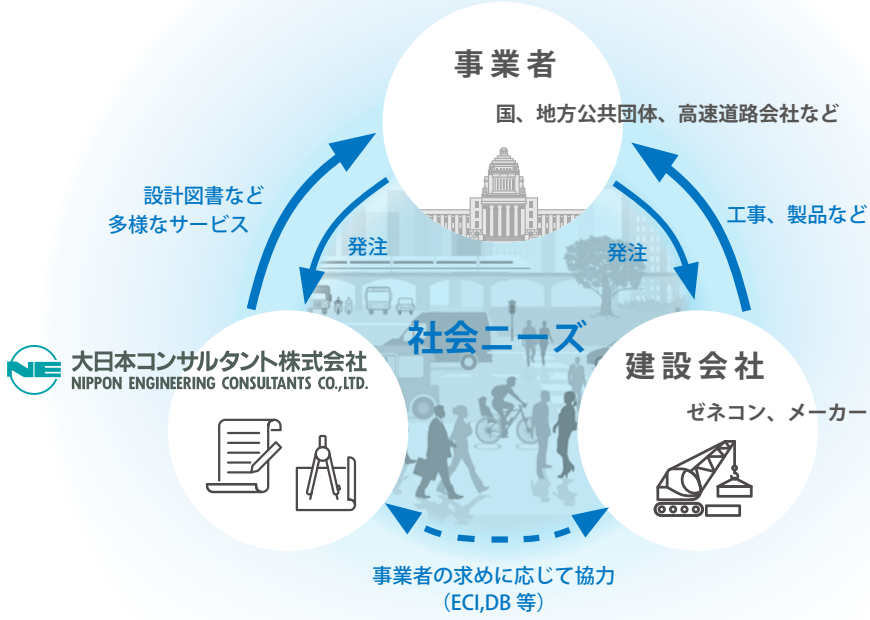
事業の概要、予算規模を検討し、上位計画、関連計画との整合、周辺への影響度確認等、事業実現に向けての青写真を作成するフェーズ。これらの成果をもとに関係者との交渉、市民への広報等を進める準備を整えます。

□ 社会資本整備事業における当社の役割

社会ニーズ、すなわち国や地域の成長を支え、多様な市民のニーズに応える社会資本整備は、右図に示すように事業者、建設コンサルタント（当社）、建設会社の3者が、連携を取って実現させています。

事業者は社会ニーズに応える事業を立案、予算を確保して、企画から運営・管理までを担います。当社はその各段階において、事業者のパートナーとして、多様なサービスを提供しています。

近年は、事業者の求めに応じた設計監理、事業監理、および事業運営における事業者支援等の機会、さらには資金を調達して自ら事業者となる機会も増え、活動フィールドが拡大しています。



設　計

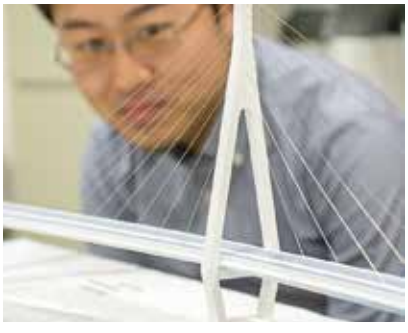
計画が確定した事業を実施するための設計図書を作成し予算を確定するフェーズ。様々な課題解決のための力が求められます。多様な英知を集めるため、建設コンサルタント会社が競い合う設計コンペ等が実施されることも増えてきました。

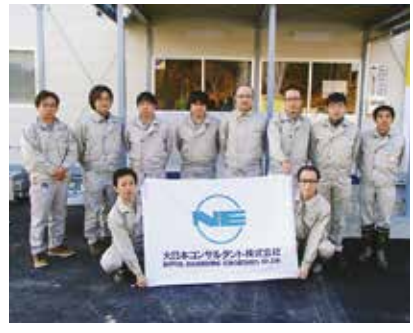
監　理

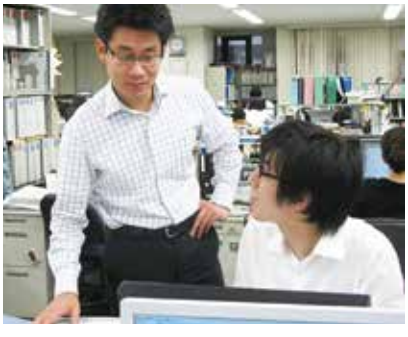
施工段階でのマネジメント業務として、設計監理や、事業全体の予算・工程・進捗等を監理する事業監理を実施するフェーズ。これまでは事業者が実施してきましたが、近年、建設コンサルタントに発注される事例が増えています。

運営・管理

整備された社会資本を運営・管理するフェーズ。指定管理者制度や PFI 事業などの法整備も進み、民間企業が担う事業も増えて、建設コンサルタントの新たな事業機会となっています。運営ノウハウは、企画レベルを上げる情報源にもなり、企業価値向上にも寄与しています。







業務領域

構造分野、社会創造分野、国土保全分野の
３分野が当社のコア技術です。
そこに、イノベーションを先導する
研究・開発およびデザイン部門と、
コア技術をさらに広がりをもって展開する
エネルギー事業部門、事業マネジメント部門
および海外事業部門を、全社横断組織として配し、
事業領域の拡大と高度化に繋げています。

SDGs 達成に向けて

私たちの国には豊かな自然と四季折々の風景があり、厳しい環境においても人々は地域の特性に工夫を重ね、共生し、多様な地域文化を育んできました。一方、経済成長重視で都市開発等を進めてきた弊害として、それらを支える本当の意味での生活基盤である「山水」や「大地」への関心が薄れ、その多様な恩恵を見逃したり、壊してきた側面にも留意が欠かせません。持続可能な社会を実現するための国際目標SDGsも、そのような視点を含んでいます。

当社の経営理念である「美しく魅力ある国土の建設と保全」「安全で快適な住まい環境の創出」はSDGsが掲げる理念とも整合しています。特にイノベーションを足掛かりに、コア事業を興してきた当社の歴史や、様々な関係者との連携を重視してきた実績は、それぞれSDGsが掲げる17ゴールの内、9（産業と技術革新の基盤をつくろう）、11（住み続けられるまちづくりを）、17（パートナーシップで目標を達成しよう）に通じます。加えて、7（エネルギーをみんなにそしてクリーンに）への貢献に向けて事業展開を進めているところです。また、変わり続ける社会ニーズに向き合う人財育成方針は４（質の高い教育をみんなに）にも通じています。

当社はこのような認識の上に、引き継いできた経営理念のもと、これからも一つ一つの社会課題に誠実に向き合い、SDGs達成に貢献していきます。

4
研究・開発
減災・防災技術
先進保全技術
次世代まちづくり

Innovation

SDGs（Sustainable Development Goals）

2015 年 9 月の国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中核をなす開発目標集で、17 のゴール、169 のターゲットおよび指標で構成されます。
「誰ひとり取り残さない（No One Left Behind)」というコンセプトのもと、People（人間）、Planet（地球）、Peace（平和）、Prosperity（繁栄）、Partnership（協働）の 5 つのキーワードを大切にする視点から目標が定められています。
17 ゴールのキーワードは、1 貧困、2 飢餓、3 健康な生活、4 教育、5 ジェンダー、6 水、7 エネルギー、8 雇用、9 インフラ、10 不平等の是正、11 安全な都市、12 持続可能な生産、13 気候変動、14 海洋、15 生態系・森林、16 法の支配、17 パートナーシップ、です。先進国も途上国も、政府、地方公共団体、企業、すべての関係者が、SDGs 達成に向けて自主的に取り組むことが求められています。

1 構造
Structural Design

社会基盤に強さと美しさを

橋は、川や谷を越えて人やモノの交流を促し、技術の発展とともに、より安全で、より身近なものとして私たちの生活の中に溶け込んできました。実用的なだけでなく、詩に詠まれ、絵に描かれて、ロマンを感じさせ、その場所の美しいランドマークとなってきました。

構造分野では、創業時から培ってきた熟練の設計技術をもって、その地域の地形、気候、環境、歴史、ならびに時代が求める要求性能など様々な条件を考慮し、美しく、安全性、耐久性、維持管理性に優れる橋梁や道路構造物の設計に従事しています。

今、日本社会は成熟期を迎え、全国に約 70 万橋ある道路橋をはじめ、様々な社会インフラの更新や維持管理が課題としてクローズアップされています。また、近年の想定を超えた台風、豪雨などの気象現象、地震、津波により構造物が倒壊、流失するなど未曾有の災害が発生し、人々の暮らしが脅かされています。

これらの課題や脅威に対しても、私たちはこれまで培ってきた技術を伝承し、次世代の人財育成に取り組むとともに、AI やロボットを活用した維持管理技術の開発を行いながら国土の強靱化、維持管理の効率化に努めています。

1

2

3

1. 橋梁を点検・診断している様子
2. 板橋・熊野町ジャンクションの４車線化｜東京都｜平成 30 年度 土木学会田中賞受賞
3. 築地大橋｜東京都｜平成 30 年度土木学会田中賞受賞
4. 新湊大橋｜富山県｜平成 24 年度土木学会田中賞受賞
5. 気仙沼大島大橋｜宮城県｜平成 29 年度土木学会田中賞受賞
6. 各務原大橋｜岐阜県｜平成 25 年度土木学会田中田中賞受賞

4

5

6

2 社会創造
Infrastructure Planning and Engineering

社会に快適さと豊かさを

都市や道路の姿は、時代とともに変化してきました。その時々の社会状況やニーズに合わせて、豊かで、安全・安心な生活基盤をつくり、地域や国の社会経済を支えてきました。

近年は、少子高齢化が進むなか、地方創生、国土強靱化、持続可能な開発、生物多様性への配慮、観光立国など、様々な役割が都市と道路の整備に求められています。

道路・交通分野では、高速道路から街路まで、様々な道路の計画・設計、交通予測、整備効果分析、交通渋滞対策、事故分析、公共交通計画等に従事しています。

都市計画分野では、マスタープラン・立地適正化計画の策定、地域活性化、観光振興計画、公園や駅前広場の設計、公共施設の再生・運営・長寿命化計画等に従事しています。

環境分野では、開発によって生じる自然環境影響評価とともに環境影響低減の提案等に従事しています。

社会創造分野としては、現代の高度で複雑な社会ニーズに対応すべく、これらの各分野を統合し分野横断型のプロジェクト体制を敷いて、社会に快適さと豊かさをもたらす“みちづくり、まちづくり”を目指しています。

1

2

4

1. 藤沢駅北口デッキ｜神奈川県
2. 志賀ルート｜長野県｜土木学会デザイン賞 2001 最優秀賞受賞
3. ヨシ原再生事業の現地調査
4. 汽車道｜神奈川県｜土木学会デザイン賞 2001 最優秀賞受賞
5. 首都圏中央連絡自動車道 久喜白岡 JCT ｜埼玉県

ニトリ
家具・インテリア

3

5
©NTT空間情報,©JAXA

3 国土保全
Land Conservation and Disaster Prevention

人と暮らしに安全・安心を

水はあらゆる生命の源であり、いかにして必要な水を確保し利用するか、また、洪水などの災害として襲いかかる水をいかにして制御するかが古くから人間社会の課題でした。河川・砂防、下水道、海岸・海洋分野では、水の有効利用や人々の安全・安心な暮らしのために、治水・利水計画や防災対策施設設計に従事しています。事前防災・減災対策にも取り組み、ハザードマップ等を作成しています。また、多自然川づくりや自然再生事業等、自然の持つ防災・減災機能を活かしたグリーンインフラの整備にも携わっています。

我が国は、急峻な地形、脆弱な地質、低地部の軟弱地盤といった日本独特の地形・地質により、建設事業では多くのトラブルに遭遇してきました。地盤、トンネル分野では、地形や地盤、地下水に関わる調査技術と土木構造物の設計技術により、地質リスクを適正に把握し、建設事業に伴う土に関する諸問題に対処するための地質調査と地盤・構造物設計に従事しています。

災害大国である日本では、豪雨や地震などにより道路や河川堤防が損傷・破壊に見舞われ、私たちの暮らしに甚大な被害をもたらしています。気候変動に伴いこれらに起因する自然災害も激甚化してきています。災害発生時には国や地方公共団体からの要請を受けて、応急対策や災害復旧のための緊急出動にも対応しています。

1

2

1. 北十間川護岸整備｜東京都
2. 砂防堰堤調査の様子
3. 矢田川多自然落差工（全断面魚道）設計｜愛知県
4. ドローンによる空中電磁探査
5. 津松阪港堤防設計｜三重県
6. ドローンによる砂防堰堤調査
7. 瀬戸トンネル｜岡山県

3

4

ネオサイエンス社製

5

6

7

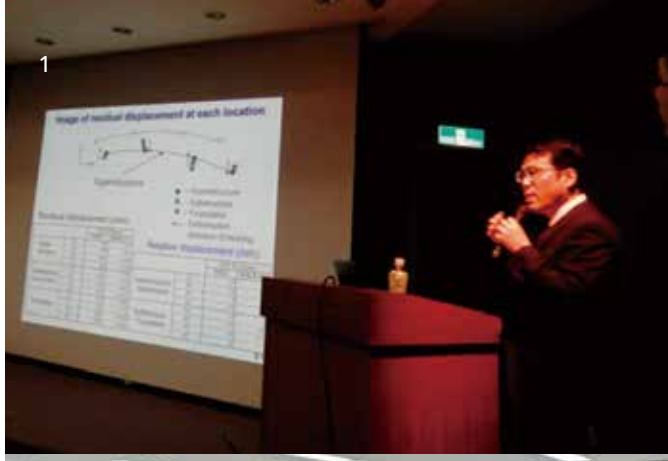
4 研究開発
Research and Development

英知を集めて未来を拓く

社会ニーズを先取りし、社会が必要とするタイミングで、皆が使える技術として提供することを目標に、様々な研究・開発を実施し、社会実装まで対応しています。

研究開発テーマは、「維持管理及び点検のデジタル化（省力化）」、「地域道路網全体を考慮した減災・防災技術のパッケージ化とアセットマネジメント領域への進出」、「AI 等最新 IT テクノロジーの設計実務への実装研究」、「次世代まちづくりの研究と実践」、「景観生態学を用いた川づくりの研究と実践」、「空中物理探索の利用拡大に向けた研究と実践」、「様々な技術分野を連携させて新たな付加価値を創出する情報マネジメント技術」等があります。

すべてのテーマで大学や他企業と連携するオープンイノベーション方式で進めています。社会が解決を求める課題を発見するためには、社会課題のすぐそばに位置していることが不可欠であり、私たちは課題発見のセンサーならびに技術の社会実装に向けた羅針盤役を果たしています。


1

2

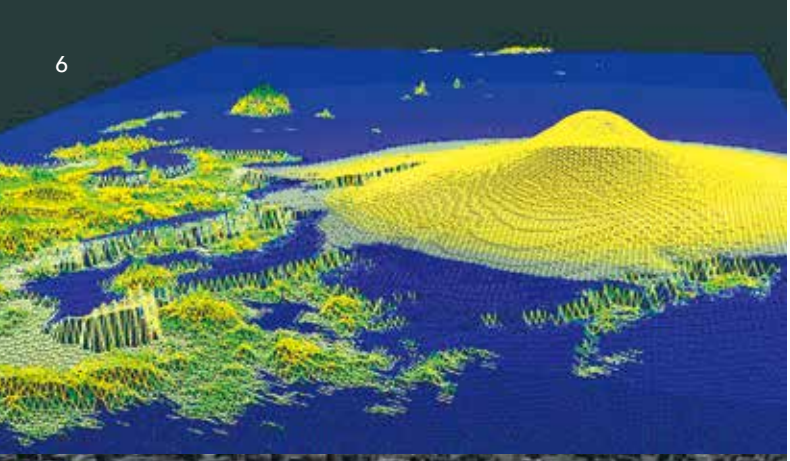
3

4

5

1. 国際会議での講演会
2. 社内発表会の様子
3. ワークショップでのファシリテーション
4. 現場での計測
5. SIVE｜床版たわみ計測の様子
6. 台風による高潮解析
7. CIM による橋梁設計
8. 生態系の潜水調査
9. 多自然川づくりにおける現場指導の様子
10. 道路ネットワーク整備優先度の先進的評価システム
11. 橋梁点検用ドローン「マルコ®」
12. 実橋載荷試験とモニタリング

6



7

取り付け部(補強土壁)
橋梁部(橋梁)
取り付け部(補強土壁)
取り付け部(補強土壁)
鉄線部(橋梁)
取り付け部(補強土壁)
橋面からの視点
上部構造桁下からの視点

8

9

10

リスク R
最小化
AI
最大化
効果 B
最適化
期間 T
期間 T
道路整備計画
斜面崩壊による道路被害
ドローン空中電磁探査
斜面崩壊診断
耐震診断
耐震補強対策
津波による橋梁被害
津波・高潮対策
津波や高潮による堤防被害

11

12

5 デザイン
Landscape and Aesthetic Design

魅力という価値創造

場の魅力という「目に見えないものを見える形に」して表現するのが、私たちのデザインです。

正面の山が最高に美しく見えるように、視界を遮るものを極力表に出さないようにすることもデザインです。

雨風や強い日差しをしのげるシェルターを配置しながらも、その周辺への眺めが阻害されないようにすることも、車いすの方、乳母車を押す方、目の不自由な方、様々な人が使いやすいように気を配ることも当たり前の配慮です。もちろん、風景のシンボルとなる構造物の造形を研ぎ澄ませることも重要です。

私たちは、対象となる社会資本整備にまつわる歴史や社会の背景、地形や気候、最新技術の動向、事業に関わる志のある人物や思いの深い方々の存在等を洗い出し、それらバラバラの物語を紡いで、一つの軸を創ることから始めます。模型はデザインを考えるために欠かせない道具です。模型作りを通して手で考え、仲間と議論して、人々と対話して、デザインを仕上げていきます。様々な要素を統合し、事業そのものの魅力を引き出し価値を創出していきます。

笑顔が生まれる場所づくり。そこを目指してデザインに取り組んでいます。

1

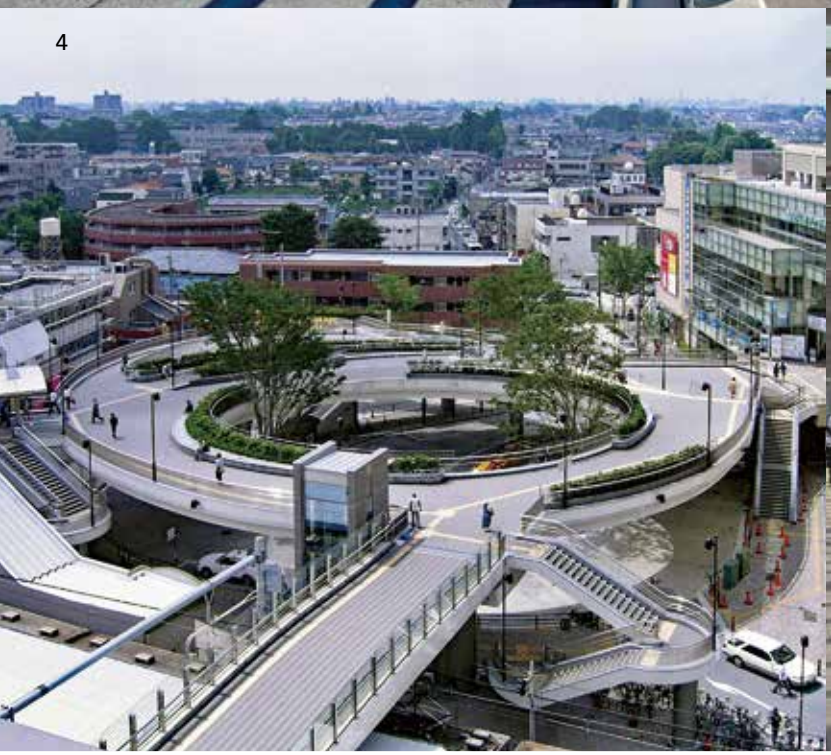
2

6

1. 苫田大橋｜岡山県｜ 2004 年度グッドデザイン賞受賞
2. 各務原大橋｜岐阜県｜土木学会デザイン賞 2015 優秀賞受賞
3. 富山大橋｜富山県｜土木学会デザイン賞 2014 奨励賞受賞
4. 大泉学園駅前デッキ｜東京都
5. 川崎ミューザデッキ｜神奈川県｜土木学会デザイン賞 2010 優秀賞受賞
6 ～ 9. 模型検討の様子

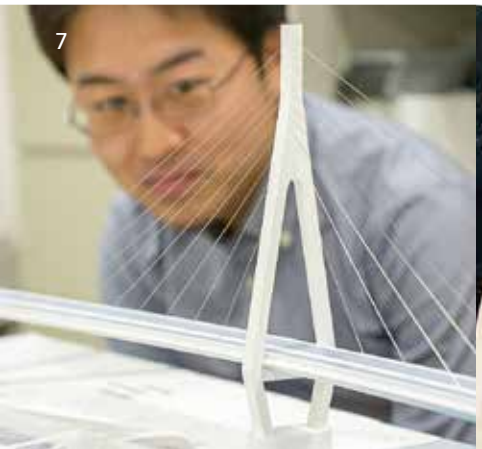
3

4



5

7



8

9

6 エネルギー事業
Energy Projects

持続可能な社会に向けて

再生可能エネルギーに関するコンサルテイングから事業運営に至る一連の技術の提供、ならびに産学官との連携によって地方からの元気をつくりだしています。

カーボンニュートラルな社会の構築に向けて、水素ステーションや純水素型燃料電池の普及を推進しています。加えて、ABINC 活動による生物多様性配慮に関する研究や企業のサステイナビリテイレポート作成支援等により、環境共生社会・循環型社会の形成、SDGs の推進にも積極的に関わり、持続可能な社会の構築に貢献しています。

1. 木質バイオマス発電（Volter）左と水素製造・燃料電池システム（G-FORCE-X）右
2. ひだ高山水素ステーション

7 事業マネジメント
Project Management

複雑・高度化する社会ニーズに応えて

高度化、複合化した社会ニーズを捉え、官民連携（PPP：Public Private Partnership）に積極的に取り組み、資金調達から事業運営まで、建設事業のすべてのフェーズに対応できる技術と経験の蓄積を推進しています。これまで国や地方公共団体等の役割であった公共事業の発注や事業の進捗管理においても当社のマネジメント技術を提供しています。

1. 事業促進PPP事業監理業務を担当した三陸沿岸自動車道（歌津本吉工区）
2. コンストラクションマネージャー（CMR）を担当した田老地区の震災復興事業
3.4. 住民とともに事業の完成を祝った田老感謝の集い

8 海外事業
Overseas Projects

時間と空間を越えて

海外においては、言語、食事、習慣、すべてが異なる環境のもと、国内で培ってきた設計技術、マネジメント技術を武器に現地の方々と協力して事業を進めています。当社はODA（政府開発援助）案件を中心に、橋や道路の計画・設計と施工管理、防災計画の立案、維持管理マネジメント等の技術協力（対象国への技術移転）に従事しています。

近年、日本国内では長大橋梁の事業機会は随分と減ってきていますが、海外からは日本の技術が求められており、当社も多くの事業に携わってきました。国内で培ってきた先進設計技術を海外展開することは、私たち自身の貴重な技術継承機会にもなっています。数10㎞におよぶ道路や支間長200mを超える長大橋梁など、対応するプロジェクト規模が大きいことは海外事業の魅力の一つです。

技術協力を主目的とした業務も意義が深いものです。レクチャーや現場指導を通じて技術を伝達することで、仲間となり、国同士の絆も深まっていきます。加えて、既存技術の移転だけでなく、当社独自に開発した技術の海外展開にも注力しています。

国内、海外といった境界を乗り越え、グローバルに活躍する人財がますます求められています。業務を通じての人づくりも進め、グローバルに社会貢献できる企業を目指していきます。

1

2

3

1. ニャッタン橋｜ベトナム ハノイ市｜平成 25 年度土木学会田中賞受賞
2. 現地職員とともに
3. レクチャー実施の様子
4. 淡水大橋｜台湾｜国際コンペ応募案（入選）
5. 日の出橋｜東ティモール｜写真提供：JICA
6. ニャッタン橋開通式の様子
7. 現地の子供との交流
8. 現地講演会でのスピーチ

6

4

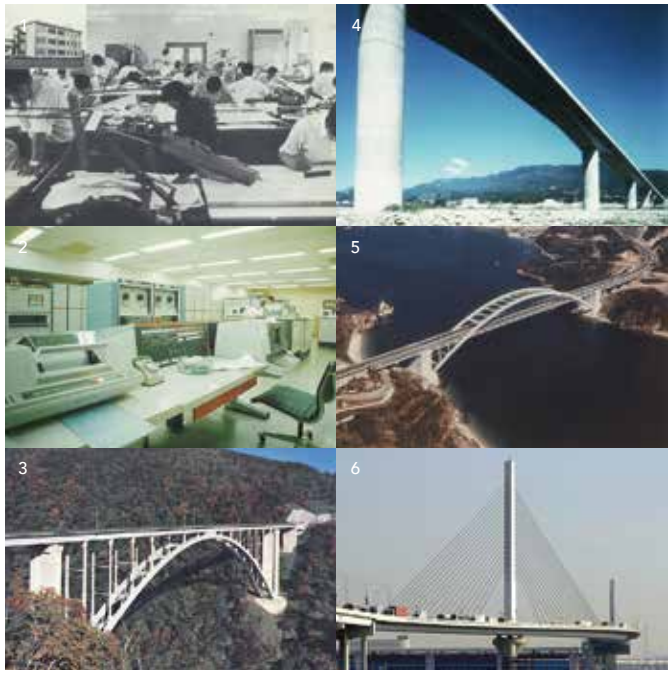
7

5

8

会社のあゆみ

1963～1990
創業、発展、基礎固め



1963 年、東京都文京区駒込にて、「誠実、技術、確実」を社訓に創業。翌年、５部門で建設コンサルタント登録し、大阪、富山、名古屋に出張所を開設。1960 年代後半に、研究開発部門を設置し、設計・解析プログラムを開発。先駆的に設計実務での活用を始めます。

1970 年代は、コンサルタント登録部門を増やし、仙台、福岡にも進出。海外部門を設置する等、事業領域を拡大。

1980 年、本州四国連絡橋の第一号である「大三島大橋」で土木学会田中賞（作品部門）初受賞。以降、「月夜野大橋」「かつしかハープ橋」等でも受賞し、「技術の大日本」の礎を固めました。

1・2. 昭和 40 年代の設計室と電算室　3. 六方沢橋　4. 月夜野大橋　5. 大三島大橋
6. かつしかハープ橋

1991 ～ 2010
成長、安定、変革

1990 年代は、空中電磁探査分野への挑戦、ベトナムに子会社設立等、成長戦略を推進。

1997 年に東証第二部に上場。経営システムの IT 化、ISO9001、ISO14001 の取得等、経営基盤の強化を推進。

2002 年、「汽車道」「志賀ルート」で第 1 回土木学会デザイン賞を受賞。以降、数多くの受賞を重ねています。独自技術の特許取得もこのころから増え始め、「技術とデザインに優れる大日本」との評判を高めました。

2005 年、新たに「港湾及び空港部門」に登録し、港湾分野へ領域拡大。2009 年、業容変革に備えて子会社 NE テクノ創設。

1. 来島大橋　2. 黒川ランプ　3. 新豊橋　4. 空中電磁探査の様子　5. 苫田大橋
6. 汽車道

会社概要

2011 ～現在

次の進化に向けて

2013 年、創業 50 周年を迎える。
2014 年、インフラ技術研究所を設立し、イノベーションによる事業領域開拓を本格始動。2015 年、水素インフラ事業で地方創生にも資する清流パワーエナジーを設立し、エネルギー分野の開拓を開始。橋梁設計等のコアコンピタンスの充実を継続しつつ、新たな事業領域拡大を推進し、次世代に繋がるイノベーティブな企業に進化すべく舵を切りました。頻発する自然災害、変化する社会ニーズ、それらに合わせて高度化、複合化する建設コンサルタントの役割を拡大し、未来に誇れる社会価値を創造する企業へ、さらなる進化を遂げていきます。

1. 各務原大橋　2. 移動式水素ステーション　3. 築地大橋　4. ドローンによる橋梁点検
5. 首都高速道路高架橋の拡幅耐震改築　6. CMR を担当した田老地区の震災復興事業

商号	大日本コンサルタント株式会社 NIPPON ENGINEERING CONSULTANTS CO., LTD.
設立	1963 年 1 月 23 日
資本金	13 億 9,900 万円
本社所在地	〒101-0022 東京都千代田区神田練塀町 300 番地
本社電話番号	03-5298-2051（代）
E-MAIL	info@ne-con.co.jp
登録	建設コンサルタント 測量業 地質調査業 計量証明事業（音圧レベル） 計量証明事業（振動加速度レベル） 土壌汚染対策事業 一級建築士事務所 ISO9001、ISO14001 ISO/IEC27001 ISO 55001

https://www.ne-con.co.jp